

個人投資家のための IRフォーラム2016 winter

～ニッポンの未来を豊かにする企業～

1969

高砂熱学工業

高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.



セミナー会場



～環境エンジニアリングにより脱炭素社会に向けて世界に貢献～

環境ソリューション企業

● 空調・管工事業界の最大手

- ・当社は1923年に設立され、能の『高砂』に会社名が由来しています。
- ・主要事業は、空調を主体に電気、また衛生と呼ばれる上下水道など周辺の建築設備工事です。
- ・2016年3月期における当社単体の管工事の受注高は2,144億円、売上高に相当する完成工事高は1,992億円と、空調、管工事業界で最大手です。

● ワンストップでサービスを提供

- ・設計から始まり、施工、保守、メンテナンス、運転、新築から15年から20年経過した後のリニューアルまでの設備のライフサイクルに合わせてワンストップでサービスを提供する環境エンジニアリング企業です。
- ・新築の際はもちろんのこと既存のビルのリニューアルや保守、メンテナンスに関して、また新規事業を通じて少しでも多く当社の技術を活かし、携わることを通じて社会の省エネルギーや省CO₂に貢献してまいります。

創立100周年に向けて

● 長期経営構想“GReeN PRIDE 100”（～2023年）

- ・2023年の創立100周年に向けた長期経営構想において、10年間で3回の中期経営計画によりスパイラルアップしていく構成として挑戦しております。今期が最終年度であり、第1ステップとなる現中計は、「変革の基礎づくり」としており、経常利益目標を1年前倒しで達成するなど、一定程度の成果を上げたと考えております。
- ・第2ステップの2017～2019年度新中計“iNnovate on 2019 just move on!”で、さらなる「成長に向けた変革の断行」の3年とします。

● 新中計でさらなる成長に向けた変革を断行する

- ・新中計では、空調工事を核とした総合設備業への飛躍、そして第2・第3の事業の柱を創造することの、2つの変革を断行します。
- ・基本方針としては、利益重視の徹底、グループ総合力の発揮を掲げています。2019年度の連結売上高3,400億円、連結経常利益135億円を業績数値目標としています。

技術をブランドとする

● 技術開発のパイオニア

- ・当社は創業時から技術者集団が最高の品質づくりや特色のある技術開発などの技術力を競争力に経営を行っています。
- ・技術をブランドとする会社として、特許の取得件数は業界トップです。創業以来、技術開発を重んじており、各種表彰を受賞しております。近年においては環境大臣賞や資源エネルギー庁長官賞を受賞しています。

● 国際事業を中長期的に強化へ

- ・国際事業については、1974年にシンガポールに拠点を構え、現在は中国、東南アジア、メキシコで展開しています。海外の売上高の割合は1割強ですが、国際事業を中長期的に強化、拡大していく方針です。
- ・売上の4分の3は、人の健康保持と快適な住環境の実現を目的とした「一般空調」であり、過去の豊富な実績等をもとに、今後も再開発プロジェクトやリニューアルに参画していきます。
- ・売上の4分の1は、産業の生産性向上、作業環境および作業効率の向上を目的とした「産業設備」ですが、技術的な優位性を発揮し、引き続き強化していきます。

利益還元は経営上の最重要課題

● 第2四半期ペースで2000年以降で最高を達成

- ・2017年3月期第2四半期は売上高の増加に加え、工事採算性の改善もあり、連結決算の開示を開始した2000年以降で、売上高、各利益ともに最高の業績を達成しています。
- ・2016年3月期の連結業績は売上高2,500億円を超え、経常利益は21年ぶりに100億円を超え、純利益は22年ぶりに60億円を超えました。今期も同水準を目指しています。

● 連結純資産配当率2%ペースと総還元の考え方

- ・配当方針として、一株当たりの純資産に対する配当金の割合を示す、連結純資産配当率(DOE)2%をベースとして配当を行っています。
- ・3円増配した前期同様に、2017年3月期は年間28円配当を予定しています(中間配当制度あり)。
- ・また、配当と自己株式取得を合わせた総還元を意識して、大型の資金需要がない場合等は、株価等の諸条件を考慮しつつ、自己株式の取得および消却の実施を検討いたします。2016年3月期の総還元性向は61%となっています。